



## 西南ゆりの会の発展を願って

西南ゆりの会会長 洪田 壽子  
(経済65期)

大学では、在学生の58%を女子学生が占めるようになり、また、卒業生においても、30%が女性となりました。

二カ月前の同時多発テロ事件以来、毎日、マスコミから流されるニュースを通じて、タリバン政権下のアフガニスタンの女性達は教育を受けることができず、成人でも女性一人での外出も認められていないということを知ると、日本の女性達は恵まれていると思いません。アフガニスタン以外でも貧困のために女子教育どころではないという国は沢山あるし、世界の

9 号	西南学院大学女子同窓会 (西南ゆりの会) 機関誌 2001年12月1日発行 発行人 洪田壽子 福岡市早良区西新6-2-92 西南学院大学同窓会内
--------	---

最先端をいつていると思われている米国ですら、いまだに女子差別撤廃条約を批准していません。(日本は昭和60年に批准。米国が批准できないのは、条件をクリアしていない州があるためとか?)  
我国では、男女共同参画社会基本法も制定され、地域でも企業でも、女性の政策決定の場への参画の環境づくりが整えられました。とはいっても、実態はまだ平等とは遠い状況にあります。せめて女性同士、支え合いながら、ほんとうの平等社会を築きましよう。

## 第25回拡大ミニサロン 新1号館202教室で

### タイムリーに東欧を聴く

素晴らしい秋空の広がる十月十三日(土)元外務省専門調査員でロシア・東欧事情に詳しい上垣彰経済学部長・教授を講師に迎え、四月に改築されたばかりの一号館校舎で講演を聴くことができました。カザフスタンなど世界の注目が集まる地域を実際に訪れたことがありの上垣先生からの、まさに時宜を得たお話は聞きごたえがあり、会場を埋め

た七二名の出席者は、皆、しばし時間を忘れて学生にもどったひとときでした。

また、講演会場に隣接する一号館ライトコートには、校地から出土した元冠防塁遺跡が復元されており、母校のキャンパスが、遠く十三世紀の昔、鎌倉幕府が蒙古襲来に備えた防塁の跡に立っていることに思いを馳せました。この遺跡は一般公開されているので、機会があれば是非一度ご覧になることをお勧めします。

講演の後、変貌著しい百地浜地区が一望できる二号館七階ラウンジに会場を移して、茶話会が行われ、上垣先生を囲んで東欧や世界情勢から身近な話題まで会話を交わし、久々に顔を合わせた会員同士の交歓がなごやかに繰り広げられました。

(西南ゆりの会では、年に一、二回の割合で、ミニサロンと名付けた小規模の講座を開いています。今回は一号館が新装なったということもあり、ホームカミングの意味あいもこめて、やや規模を大きくして開催いたしました。なお、当日の講演要旨は次ページに掲載しております。)



学生時代に戻った気分

(文責・古賀敦子)

## 国際社会と日本、そして日本の女性

西南学院大学教授 上垣 彰

(経済学部長)



## グローバル化された世界

近年、グローバルイズム・グローバルゼーション等のマスコミ言葉が聞かない日はない。確かに、この十年程の間に、国際社会に革命的变化が見られる。その一つに、「スピードアップ」がある。物や人、お金、情報等、地球上を動き廻る、移動に付随する事務処理(ロジステックス)が、猛烈に早くなった。ビザ取得や海外の書籍や物品等、購入する際は以前は数カ月かかっていたのが、今ではインターネット上で、簡単且つ短時間で契約が成立し、一週間位で入手できる時代となった。反面、犯罪のグローバルゼーション化も起こっているわけで、手放して喜んでもらえない。金融の自由化と犯罪が結合

して、世界を席卷している。

## 国際関係の多様化

物や情報が自由に地球を行き交う時代になると、国際関係も革命的に変化してくる。これまで、全く無関係だった国同士や地域が結びつくようになった。たとえば、韓国と、社会主義国のウズベキスタンの結びつきなど、冷戦時代には考えられないことだったが、今ではソウルから直行便があるなど、密接な経済関係を保っている。また、アメリカとアゼルバイジャンも、従来、敵視しあっていたが、今ではアメリカにアルメニア人の大きなコミュニティもあり、両国は石油貿易取引で、大変友好的である。

このように、世界は激しく動く。敵だと思っていた国と国が結び付くという関係の多様化である。

かく、多様な国際社会の中で、日本の立場は何をし、何をしてはならないかを考えてみたい。

私は、客観情勢と国民意識とのギャップを指摘したい。それを英語と

いう問題と結びつけて考えてみると、日本人の英語力の低さには驚く。十年間は習っている筈だが、会話も文法も聴き取りもできない。その原因を考えてみると、過去、現在、日本社会では英語は出世や生活の手段ではないことがあげられる。外務省キャリアや大使の四分の一は英語力がない。出世には別の能力があれば良いのである。

また、日本は「翻訳大国」である。自分で苦勞せずとも、誰かが大抵の分野で翻訳をしてくれているので、英語の必要性を感じないでいい。また、日本は、外国相手に商売しなくても、国内一億二千万人の「市場大国」であることも一因であろう。

タイやフィリピンでは、重要なポストや人脈、知識を得るには英語力が必要で、殆ど話せる。フィンランドは、日本の九割の国土に五百万の少ない人口であり、あまりにも国内市場が小さいので、国民全体が英語力を身につけ、国外へ市場を広げて国が成り立っているのである。

## 日本女性の今後に期待する

さて、グローバルに動く世界のこのような日本を考える時、私は男性に期待していない。女性の方が遙かに開かれ、自由である。女子学生は留学への憧れが多い。しかし、その先が見えていない。もちろん、そのこ

とさえ見失って無為に安易に過ごしている男子学生よりは、希望がある。留学を活かして、外国関係の仕事をし、貢献している女性は沢山いるが、国際舞台でリーダーシップをとる日本女性は少ない。前国連難民高等弁務官の緒方貞子さんぐらいである。緒方さんは、最後の「頼みの綱・レディ」と言われて、世界各国から尊敬された女性である。

今回の同時多発テロ事件でわかったことは、戦争・暴力は経済的繁栄とは全く両立しないということ。かつては、戦争が経済の生みの親といわれた時代もあったが、現代は違う。現代の経済繁栄の担い手は、個人消費だからである。個人が安心して生活し、消費しないと経済の繁栄はない。ビジネスは平和を希求する。そして女性がビジネスすれば、平和に貢献できると思う。

タリバンの女性差別集団は一個の民族文化を保有した集団だから、その生き方を断罪してはいけないという者もいるが、私は反対である。その理由はタリバンが恐るべき女性差別の国だからである。女性蔑視とタリバンの暴力は表裏一体である。優しくて賢く、真面目な日本女性は、タリバンなどに対する強力なアンチテーゼになっていると思う。日本女性が世界平和を切り開いていくことを私は期待している。

(文責・宮崎朝子)

# 学部は今!

## 商学部

### 歴史と現状

西南学院の歴史の中で、商学部のルーツは、一九二一年(大正十年)四月、西南学院高等学部(文科・商科)四年制の設置にみられる。その後いくたびかの変遷を経て、一九四九年四月新学制により「西南学院大学」として開学。この開学と同時に「学芸学部」(神学専攻、英文学専攻、商学専攻)を設置、一九五一年に「文商学部」に改称、一九五四年に「商学部」が独立した。一九六六年には「商学科」に加えて「経営学科」を増設し今日に至っている。

特筆すべきことは二〇〇〇年度、入学者数においては、商学科一七三名中、男性七六名、女性九七名と初めて男女逆転現象がみられ、文学部につき、商学部においても女性の占有率が五〇%を初めて超えたことである。女子学生にとっても、卒業後の就職を強く意識した実学指向の表れと受けとめてよいのだろうか。一九六八年当時、商学部女子学生

はわずか一〇名程度であったことを思えば、時代の変化と女性の意識の変化の大きさを改めて感じている。

### 金融・会計ビッグバンのうねりの中で

近年、コンピューターの急速な発展により、各国経済のグローバル化の中で、一九九六年以降、日本の金融制度や会計制度は大改革を余儀なくされている。いわゆる「金融ビッグ



上方先生を中心に吉田(左)と高山(右)のインタビュー

バン」さらに「会計ビッグバン」とよばれる大転換期のうねりの真っ直中にある。

このような社会情勢を背景に、世界標準となる制度の確立にむけて、この分野の学問は、今までの尺度をはるかに越えた新たな発想を求められており、「古くて、しかし、新しい学問」としての重要性はますます高いものになるであろう。

「国際化」「情報化」に対応すべき方策としては、英語を世界の共通語と位置づけ、商学部独自の英語教育を、より強化するように工夫している。また、「情報処理の基礎・応用」「ビジネス情報技術の基礎・応用」といったコンピューターを駆使したカリキュラムが設定されている。

なお、「日商簿記検定、税理士・公認会計士試験準備講座」を全学に開講して経理のプロフェッショナル育成にも努力している。さらに、カリキュラムや授業のあり方が学生の関心に対応できているか等、教育改革の参考とすべく、学生に対するアンケート調査(教育調査)を実施し、結果報告書にまとめなど、教授陣の積極的な行動がある。

### 土方久教授へのインタビュー

今回の取材にあたり、西南学院大学に在職されて三十余年、商学部長

(六年間)、広報委員長(四年間)など歴任され、現在は大学院学務部長、大学院経済学科研究部長としての役割をお持ちであり、本学を知り尽くされておられる、上方教授に面談をお願いした。

十月下旬、教授は研究報告発表のため、招かれてベルリンへご出発直前のお忙しい中、資料の準備や面談のための貴重なお時間を割いていただいた。

初対面であったにもかかわらず、三時間近く、大学のこと、商学部のこと、学生のこと等、熱く語ってくださった。

上方教授は久留米に住んでおられる。一方、田主丸町にも山荘をお持ちで、ここに、学生達を招いて膝を突き合わせて語り明かされることもしばしばとか。

気さくなお人柄と優しいお顔に接しながら、楽しく、有意義なお話げきけた。

最後に、教授は、西南大の同窓会に愛称がないのは寂しい、同窓生の絆も他の大学に比べて少し薄いようだ。それゆえ、女子同窓会に「西南ゆりの会」という愛称があるのは、親しみが持てていいし、今後、ますます期待される存在になるでしょう。と、おっしゃってくださいました。

改めて、励ましとご親切に感謝申し上げます。(文責・吉田扶久子)

# 布花に生命吹きこむ



今回は、山上るい氏が創始した布花で、一九八八年第3回全国インテリア作品コンテスト最優秀賞を受賞された、綾部せい子さんをご紹介します。

秋晴れの美しい一日、綾部さんのアトリエでもあるご自宅に伺いました。レンガ造りの美しい家の外には、綾部さんが丹精された季節の花々が咲き誇り、家の中には綾部さんの情熱をこめた芸術の花々が、これも咲き乱れて、まるで不思議の世界に迷い込んだような気分になりました。たくさん花に囲まれて、時間を忘れてお話をうかがいました。

◆ ◆ ◆  
綾部さんは、昭和三十六年に児童教育科を卒業されたわけですが、学生時代の思い出をお話し下さい。  
：あのころの児教科には、ユニークで熱心な先生が多くいられて、たくさんの素晴らしい講義をうけました。中でも覚えていたのは、主任教授の福永先生からいただいた「そえ木して、直く育てよ稚児桜」とい

う句です。これは、児童教育の難しさを歌ったものだと思いますが、それを実感したのは、卒業して四年間勤めた幼稚園の教諭時代でしたね。

— 布花を始められたきっかけは？  
：一人息子が幼稚園に入ったとき、これからは自分の時間も大切にしないでほしいと思つて、いろいろなお稽古事を始めました。その中で、山

## HANDSOME WOMAN

### ⑨ 綾部せい子さん

(児童教育科61期)



上るい先生の布花に出会って、感銘を受けました。もともとインテリアに興味があつて、部屋の模様替えはもちろん、五年ごとに引っ越しをするほどでしたから、自分の周りをその布花で飾つてみたいと思つたのです。

— それで、山上先生に師事されたのですか？



綾部さんの作品

：最初はるい先生のお弟子さんを探して、北九州で習っていましたが、一九七七年、息子が中学に入学して寮に入ったので、思い切って、大阪のるい先生のもとに通い始めました。当初は、日帰りで通つたのですが、その頃の先生のお宅には、たくさん生徒さんがあふれていて、座る場所もなく、四時間いてバラの花びら二、三枚染めただけ、なんてこともありました。それで、思い切って、一泊の特別クラスに入れました。大阪には、先生がお亡くなりになる一九九五年まで通いました。

— その間に個展もなさつたのですか？  
：先生のお許しを得て、一九八〇年に小倉井筒屋美術画廊で、第一回目の個展を開きました。それから五年に一回のペースで個展を開いてい

ね。

ます。

— 今は、このご自宅で教えていらっしゃるのですか？  
：布花は、情熱も時間もかかる仕事ですから、二カ月に一度の教室です。空いている時間があると、花屋さんを覗いたり、野の花を探したり、自分の時間を大切にしています。

— 綾部さんのお花は、創作のお花でありながら、まるで生きています。うな、不思議な魅力がありますね。  
：もともと、花が好きで、枯れるのが悲しくて、布花を造りはじめました。ですから、新しい花を造る時には、生花を最初から枯れるまで、じつと見続けるんです。で、その質感を出せる布を選びます。

— これからは、どんなことに挑戦なさりたいですか？  
：たとえば、生け花との競演とか、他の美術品との競演なども、やってみたいですね。

◆ ◆ ◆  
綾部さんによって、愛され、永遠の命を与えられたたくさんのお花々。その中でひととき美しく輝いている華は、綾部さんその人でした。西南卒業の女性たちは、こうして様々な場所ですれぞれに美しい花を咲かせているに違いありません。

(文責・桑野綾子)



## 交換留学生としてアメリカへ

西南学院大学に在学中、交換留学生として、ニューヨーク州立大学へ留学して以来、アメリカの土を踏んでいる期間の方が長くなりました。大学卒業後、ニュージャージーのラトガーズ大学大学院へ進学。そこではオーガニゼーションナルコミュニティを専攻しました。一九九八年に、大学院修士号を取得した後、ニュージャージーからシアトルへ、移りました。

### 緑あふれる街

シアトルに住み始めて、今年で四年目になりました。穏やかな気候で、夏は湿気も低く、冬は寒さも厳しくないため、一年を通して衣替えの必要が全くないのです。

主人と、シアトルは一年中春か秋だねと、冗談をかわしています。町の中も緑があふれ、人口55万人のシアトルは、都市にいながら自然を身近に感じる事ができます。車で東西南北どの方向へドライブしても、一時間以内には自然の中に溶け込め、スキー、ハイキング、自転車、カヤック、ヨット、釣りなど、あらゆるレクリエーションが楽しめます。

## イチロー人気でわきたつ

今まで、どちらかと言えば、日本人にはあまり有名ではなかったシアトルですが、今年イチロー選手のおかげで、シアトルも一躍観光の名

## シアトルは今、旬です

Fumiyo  
Conway-Yasuyama  
(泰山文代 外英96期)



した。残念ながら、ワールド・シリーズには進めませんでした。すでに皆来年の活躍を期待しています。

### 深刻なテロの影響

今年アメリカ国内でもいろいろな事であふれている年になっています。ハイテク市場で暴騰した株式市場も、日本のバブルを思わせるような暴落で、景気も目に見える程低下しています。そして、九月十一日のニューヨークのテロリストアタック。国民が安全とは何か！と見直させられた年でした。今でも、毎日テロのニュースが絶えません。たくさんの方が車や家に国旗を出して愛国心を示しています。大分状況は落ち着いてきましたが、まだ、飛行機で旅行するのはごめんという人がたくさんいる様です。

十一月下旬に入り、雨が毎日降っているシアトルです。午後の四時半くらいになると、すでに日も落ち、日が刻々と短くなっていきます。外ではすでにクリスマスセールが始まり、テレビをつけても特集ばかり。こちらではクリスマスプレゼントの買物でデパートが一年の中でもっとも忙しい時期です。土日にあやまってデパートにでも出かけると、レジは人々の行列。少し休憩しようと思っても、コーヒーショ

ップではラッテ待ちで、ここでも行列。私は市内に住んでいるので、平日にデパートへ出かけることができ、人ごみを避けるため、土日は家でのんびりするものと考えています。月曜日にも出かければ、人ごみも大分落ち着いているでしょうか。

### 豊富な日本食材

アメリカへ住んでいても、都市に住んでいるので、日本食には困りません。材料はびつくりするほど何もかも手に入ります。野菜も果物も旬のものがスーパーに出回り、豆腐やお味噌くらいでしたら、近所のお店でも手に入ります。やはり、どこに住んでいても、母親が作ったおふくろの味はかせないもので、ちよくちよく自分でも日本食を作っています。主人もアメリカ人のくせに、「久しぶりに、お味噌汁とご飯が食べたい」とこぼすくらいです。日本ではひじきの煮物も作ったことがなかったのに、こちらに来ていろいろ日本食のレシピが増えました。今度、日本へ帰国したら、母親からもおふくろの味を教えてもらおうつもりです。

野球シーズンは雨も少なく、日も長くなっているので、シアトルはとも過ごしやすいところです。夏には夜の九時頃まで、外は明るいので、治安も良いので、皆さんも来年はイチロー選手を応援にぜひ遊びに来てください。

### 第三回新春のつどい(名刺交換会) なつかしい顔、 はずむ会話

二〇〇〇一年新春の集いは、一月二十六日の夕刻、福岡市天神の西鉄ソラリアホテルにて、開催いたしました。当日は大寒の真つただ中ではありましたが、お天気に恵まれ、多数の来賓の方々や卒業生、約九十名の出席でした。



また、女子同窓会発足の出発点であり基礎になる力を下さった、アメリカ在住の河野勤氏のご親戚である、河野喜代子様にご出席いただいたのは、大変うれしいことでした。会場が、初めてのホテルということもあって、一段と華やかに盛り上がり、ご出席の皆さんにも好評だったようです。

会費も実費をはるかに下回る納得価格にできましたのは、これまでの蓄積と皆さんのご協力のたまものです。

懐かしい恩師や先輩、後輩との久しぶりの再会に会話もはずみ、卒業生による女声合唱団「西南プリー



口からの再出

ル」の美しいコーラスなど、名残りはつきない冬の夜のひとときでした。この日の集いも含めて、四十数回のゆりの会開催の成果がビジネスの上でもまた子育て、家庭生活等に、少しでも役に立てばほんとうにうれしい限りです。

しかし、色々な分野でご活躍の女子卒業生は、もつとたくさんおられる筈ですが、連絡方法その他の不備のため、限られた範囲の方にしかご案内できないのは、非常に残念です。これからも、「ゆりの会」の目的の一つである会員相互の支援の輪を広げるために、皆さまの積極的なご意見とご参加をお待ちしています。

### 十五周年記念講演会 慶大ラグビー部監督 上田昭夫氏を迎えて

恒例の第十四回秋のつどいは、「西南ゆりの会」十五周年を記念して、二〇〇〇年九月十九日十八時三十分よりアークロス福岡イベントホールにて講演会を開催しました。

講師には慶應義塾大学ラグビー部監督で元スポーツキャスターの上田昭夫氏を迎え、「ゼ

### ●カンパのお礼とお願い

当会はいわゆる固定の会費徴収を行わず学院同窓会からの補助金(年額四十万円)で運営されています。経常の活動費、秋のつどいやミニサロン等の行事関係の諸費用、白ゆりの制作費、郵送費等、補助金だけではとうていまかないきれないのが現状です。そのような中、皆さまからのカンパ金のおかげでこうした活動が続けられていることを思い、ここにあらためて厚くお礼を申し上げます。

そのような事情で、本年もカンパを切にお願いする次第です。お志のある方は同封の振替用紙で一口千円(何口でも)お振り込み下さるようお願い申し上げます。なお、昨年度カンパして頂いた方のお名前を感謝とともに記させていただきます。万一手違いのためにお名前が洩れている方がいらっしゃいましたら、ご一報下さいますようお願いいたします。(会長 洪田壽子)

### ●カンパ協力者のお名前

- 青山容子 赤岩喜代子 天野ひとみ 阿部真知子 綾部せい子 井口紀子 井上千鶴子 池辺貞子 石神美代子 石田多由美 岩切裕子 岩尾豊子 上堀順子 内海このも 内海昌子 浦部ミドリ 大山真理子 尾崎恵子 尾崎美子 大田千恵美 岡野秀雄 岡部葉子 岡村裕美 柿本加代 門田洋子 嘉村理実 亀永美智子 河内光子 木村多美子 北村順子 日下部千春 草場久子 串崎尚 楠原町 桑野綾子 古賀和子 古賀ミエ 小林捷恵 後藤活子 佐々木宏子 塩屋優子 洪田壽子 白井紘子 白石浩子 白川潔子 白水心子 将口忍 庄野信子 田代貞枝 田中京子 田中淳子 田村明美 谷磯子 高丘和子 高崎京子 高山和代 継千穂 寺園峯子 土井美弥子 長束正之 中里利子 中野和子 中野茂代 中村和子 中村笑中村真弓 中村摩企子 中村八千代 野口昌子 野尻美南子 野副信子 野田朋子 野田光子 原田厚子 藤木規美子 藤沢侑子 藤村和芳 藤原良一 船木由美子 帆足卓佐子 星子孝枝 星出真枝 三矢順子 三原貴美子 宮崎朝子 宮崎県支部(大学同窓会) 森憲子 森井みどり 矢田晶子 山内純子 山崎美知子 山本壽子 横山美津子 吉田敏美 吉田扶久子 吉田美枝子

発」と題して講演をして頂きました。

当日は、シートの院長ほか女子同窓生はもちろん多くの男子同窓生や一般の会社員、ラグビー部の高校生など六二〇名余りの出席者で盛況でした。

上田氏は低迷していた母校ラグビー部を二〇〇〇年には、十四年ぶりが特に印象的でした。

りに大学選手権優勝へと導き、再建への体験を熱く語ってくれました。

その中で「学生たちの主体的なクラブ運営を指導し、試合で勝つことの喜びや感動を味わってほしいと熱意をもって接すれば、学生たちは結果で応えてくれるのです。」という言葉

# ひろば

**加藤広子** (経済81期・前原)  
「白ゆり」7号の西新界隈の地図を見て、約二十年前、自分がそこで大学生活を送っていた事を思い出した(北九州から通ってました)。涙が出るほど懐かしくなってしまいました。町並みは、すっかり変わっているけれど、二十年前、自分がそこにいた事が思い出されます。私は主婦となり、二児の母となりましたが、いつとも西南大を出た事を誇りに生きています。

**兼松博子** (仏専72期・福田)  
二〇〇〇年十一月十三日の記念イベント前に、卒業以来、初めてクラス会を催しました72期仏専、約三分の一の十六名が集まり再会を喜び合いました。次回までできるだけ多くの消息を確かめようとしています。

**天野ひとみ** (学専82期・牛島)  
夫も西南大出身なので、いつでも西南や西新の街には行ける…と思いが、もう何年と足が遠のいております。「白ゆり」7号を呼んで、しばしタイムスリップして、尾崎恵子先生のイラスト、西新界隈も、まだまだあの頃の西南、西新らしくつととても素敵でした。

**森重知子** (国際文化93期・須佐)  
初めて「白ゆり」を拝読させていただきました。恥ずかしながら、女子同窓会を今まで知りませんでした。来週は大阪、さ来週は東京で卒業生と会う機会がありますので、頂いた機関誌を手みやげとして持っていこうと思います。

**出口ツツ子** (学専84期・大野)  
「白ゆり」7号の尾崎恵子先生のイラスト半世紀前となりました。学生生活や鳥飼校舎を懐かしく想い出してあります。一日の平安を朝夕感謝する毎日です。

**真崎美紀子** (経済93期・小川)  
二年前に結婚し、昨年は子供も生まれ、現在、育児に奮闘中です。「白ゆり」大変楽しく拝見いたしました。西新の街はいつまでも、活気のある街であって欲しいものです。

**長尾元子** (法76期・外園)  
今回はじめて西南ゆりの会のお便りを頂戴致しました。福岡を離れて二十年、転勤族で東京・新潟・大阪等々、あちこちと移り、現在は三度めの東京で、六年めを迎えております。76期の布村さん、井野さんのお便りを読み、とても懐かしく感じております。お二人共、学生時代と変わらず元気いっぱいのご様子が、大学時代を思い出させてくれ、嬉しく思います。

**永吉節子** (英専77期・山北)  
今、国際言語学院で非常勤の日本語教師をしておりますが、知っているだけでも六名が西南OGです。この仕事、西南のOGが頑張っています。

**神田幸子** (英文66期・石井)  
関東の集いも女性が増えてきて、本年も新しい出会いが生まれました。兄教の後輩が福祉方面の助教授をしているとの事、又、四国学院大学でも友人(英文教授)の声がかかり、チャペル、丸亀市、高松教会等で講演の方をやってきました。「絆」に感謝。

**柳瀬啓子** (商73期)  
毎日文化センターで親業訓練(心の通う人間関係・親子関係の作り方の訓練)を、また、朝日カルチャーセンターでベルセミナー(名作による自己成長セミナー)を指導しています。

**永谷美智子** (英文72期・亀水)  
この度のテロリストによる大事件、怒りと不安を感じます。いろいろな考え方がありますが、想像もできないほどの隔たりとその表現手段の違いは、あまりにも

も大きいと思います。I hope everything's well with you. ニューヨークに住む友人(英文72期)からのメールの一文を皆様に戻ります。

**白水京子** (学専74期・吉田)  
長女は今、西南大、児童教育学科で学んでおります。甥先生や尾崎先生方々より、親子二代で習っております。もう一度西南キャンパスで学習をして、保育の仕事に復帰しようかと思っております。

**令官恵理子** (英専75期・江崎)  
北九州市戸畑区にてホテル千望荘を経営しております。小さなホテルですが、主に、仕事関係の方にご利用頂いております。低料金・アットホームが売りです。

**嶽村久美子** (学専70期・菅)  
「開学五十周年記念」の集いに参加させていただきました。とても元氣の出る楽しい一時でした。村上学長先生のお話しは少ししかうかがえませんでした。とても人間性あふれる語りでした。当日お目にかかれた山崎さんは学生時代、ワークキャンプで先輩として憧れていた方でした。井手さんは幼稚園の後輩で近所、親同士の交流がありました。

**大山万理子** (英文79期・中西)  
「白ゆり」8号は元上司である富重同窓会会長のメッセージがお写真と共に載っていて、大変懐かしかったです。昨年秋、手づかしの辛子めんたいのお店をオープン(嘉穂郡桂川町の茜屋)し、毎日、忙しくしております。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。

**高橋直子** (英文83期)  
西南大50周年記念講演会・パネルディスカッションのパネリストになった者です。西南大に望むこと①海外からの留学生を増やし、日本からも多くの学生を海外に出す(語学関係の科についてはほぼ全員)②ユニバーシティアイデンティティを明確にし、西南だからこそ是非③という声を拡げる。④他大学、他機関との相

互交流を活発にし、新しい分野の開拓をする。④市民に開かれた大学作りを！リカレント教育の場を拡充してほしい。

**財部裕子** (仏専76期・西川)  
初めてご案内状をいただき、西南ゆりの会のことにも存じ上げませんでした。大変強く思いました。卒業以来、学校に向くこともほとんどなく、長い時間が過ぎました。子供(男の子二名)がまだ小学生ですので、忙しくしております。

**福江佐和** (経済87期・田中)  
現在三歳、一歳の男児の子育ての真っ最中です。あの自由であった学生時代を「白ゆり」を拝読しながら、懐かしく思い出しております。

**江下知** (英文70期)  
平成七年に中洲の陽光ビル4階でメソバース・スナックをはじめました。西南卒の方々もご縁でご紹介いただいたり、又、キャンパス時代にもどり、話が盛り上がっております。

**小山千鶴子** (学専78期・西島)  
「白ゆり」7号は尾崎恵子先生のイラストによる表紙で、懐かしさと温かさを感じました。とてもよかったです。各地でご活躍の皆さんの中に、「西区いきいきレポート」をされた方がおられ、今年は名称はわかりましたが、「アクティブメイ」として、私も中央区の会議に参加させてもらっています。特に、仕事はしていませんが、PTAやこれらの学習を通して、少しは社会参加をしている気がしています。

**古賀ミエ** (英文71期・岡)  
大学を卒業して四分の一世紀が過ぎ、月日の経つのが早さに驚いてしまいます。今日、ゆりの会の会報を初めて頂き、みなながら拝見しました。又、今回が初めての出席と同時に、大学を訪れるのも、卒業以来、初めてのことで、一月八日(二〇〇〇年の新春のつどい)のつどいを心より待ち望む次第です。

第4回

「新春のつどい」のご案内

西南ゆりの会では、西南学院大学女子同窓会相互の支援ネットワークを充実させるために、「新春のつどい(名刺交換会)」を開催しておりますが、第4回のつどいを左記のとおり行います。名刺をお持ちの方も持ちでない方も(いろいろ工夫された手作り名刺大歓迎)おさそいあわせの上、ぜひご出席ください。

記

・日時 二〇〇二年二月八日(金)  
午後六時三十分～  
八時三十分

・会場 西鉄グランドホテル一階  
(受付開始 午後六時)  
カスケードルーム  
福岡市中央区大名

・会費 二一六一六〇  
TEL(〇九二七七一七二七二一)  
五〇〇〇円  
(当日、会場でお支払い  
ください)

☆当日は、九州朝日放送常務取締役編成局長の柳原緑さん(英文63期)のスピーチ及び西南学院大学ハンドベルクワイアの演奏を予定しています。

2000年度収支報告

(2000年4月1日～2001年3月31日)

1. 収入の部

項目	収入額	備考
繰越金	29,781円	1999年度よりの繰越し
同窓会補助金	500,000	西南学院大学同窓会補助金
講演会費等	430,000	新春の集い 会費5,000円×70名 お祝金
ミニサロン費	23,000	会費1,000円×23名
記念講演会基金等取りくずし	600,000	ゆりの会15周年記念講演会 収益金及びカンパ金より
雑収入	164	普通預金利息
収入の部合計	1,582,945	

2. 支出の部

項目	支出額	備考
講演会費等	540,230	新春の集い、西鉄ソラリアパーティー費
ミニサロン費	36,905	ミニサロン茶菓代、講師謝礼
講師謝礼	30,000	ブリエール出演御礼
慶弔渉外費	96,000	慶弔花代、他大学パーティー出席、同窓会名簿広告等
通信費	410,820	「白ゆり」及び秋の集い案内状、新春の集い案内状発送費
印刷費	365,515	「白ゆり」、封筒等作成費、新春の集い案内状印刷費等
会議費及び事務所費	81,948	役員会、事務所費
雑費	17,574	フィルム代、事務用品等
繰越金	3,953	平成13年度会計への繰越し
支出の部合計	1,582,945	

2000年度事業報告

(2000年4月1日～2001年3月31日)

- ☆西南学院大学同窓会総会 2000年6月9日(金)  
積極的に参加する
- ☆西南ゆりの会総会 6月9日(金)  
大学総会にあわせて開催
- ☆西南ゆりの会15周年記念行事 9月19日(火)  
第14回秋の集い  
・講師 上田昭夫氏(慶大ラグビー部監督)  
・会場 アクロス福岡イベントホール
- ☆第3回新春の集い 2001年1月26日(金)  
・会場 ソラリア西鉄ホテル  
西南ブリエール出演
- ☆第24回ミニサロン 3月19日(月)  
・講師 前学長 田中輝雄先生
- ☆西南ゆりの会広報誌「白ゆり」第8号発行そして発送
- ☆サラマッポの会援助(フィリピンの女子学生に奨学金)
- ☆役員・委員会  
月に1回以上(昼と夜を交互に)

掲示板

☆受賞おめでとうございます

西南ゆりの会発足以来十六年間、連絡先として女子同窓会の活動を縁の下から支え続けてくださっています。梓書院代表取締役田村明美さん(英文61期)が二〇〇一年十一月二十日に、福岡市民文化活動功労賞を受賞されました。地道なそして着実な歩みは本場にすばらしく、敬意を表します。これからも同社が地方の出版文化向上に尽力、発展されますことを、心から願っております。  
(吉田扶久子記)

☆グレイヴス先生永眠

一九三九年から七十六年まで、西南学院大学で教育とキリスト教の布教に心血をそそがれた、グレイヴス先生が、二〇〇〇年十二月二十五日、故郷のアメリカ・ルイジアナ州の「善きサマリヤ人」のナッシングホームで九十三年の生涯を終えられました。クリスマススイブの二十四日夜十時頃まではお元氣だったそうで、その後、眠るよう静かに息を引き取られたとのこと。先生のみ霊のやすらかならんことを祈ります。

\*編集後記\*

・「ゆりの会」役員最若年です。ステキな先輩にかこまれていろいろ勉強させてもらっています。(山田)  
・毎回取材をする度に、西南卒業生の幅の広さには驚かされます。「ゆりの会」の華たちに乾杯!「ひろば」へのお便りをお待ちしています。(綾子)